

2015年度*【広報版】< 2016年年頭の挨拶 > 2016年 1月 4日
基盤整備3年計画の初年度、経営改革を進めながら来期も2桁成長を目指す。
基本は信用と実力、それに必要なのは人材とリーダーの情熱とチームワーク、
当社の若い世代が、一流のIT技術者を目指して目標に挑戦、努力すること、
中間と旧世代が、リーダーとして自覚と気概を持って活躍の舞台を創ること、
これが一体となって動き出せば、3年を待たずに安定成長軌道に乗ると思う。

株式会社 アイヴィス 代表 石和田 雄二

☆ 新年、あけましておめでとうございます。

今年の正月は休みは短かったが、好天に恵まれ、友達や家族と密度の濃い時間が持て、楽しい思い出が出来たのではないのでしょうか？

私は、何時もの様に大晦日も深夜まで仕事をしていたので電車の中で新年を迎えました。

家族が近くの辻堂海岸で初日の出を見ることにしていた為、車の運転手を頼まれ、軽く寝て5時起き、ご来光を見に出かけました。鎌倉稲村崎と江の島の間、遥かな三浦半島の山から上り始めるオレンジ色の初日の出、新しい一年を迎える清新な気持ち、胸を張って深呼吸をしました。

その足で初詣、慶應 SFC 近くの鎮守の杜、地元の宇都母知神社に行きました。「家内安全」「商売繁盛」を祈願、お参りを終え御神籤を引くと、運があるのか3年連続の大吉、主文に「春風に花の咲くが如し」とあるが、添え書きには「心やわらかにもてば万事心のままなるべし」ともある。確かに、最近は何のせいも、頭も心も固くなっていてイライラすることが多く、「心やわらかでないと成功はしないヨ」との神様のご託宣、年の初めでもあり自省、心やわらかになるべく努力することを誓いました。

☆ 今年の干支は丙申、新たな時代が始まる年との意味があるそうです。

今年の干支は丙申（ひのえさる）、10干の意味は陽陰と5行（木火土金水）、10干12支は5行12支、60年単位に暦が帰ることになる。

丙申は陽の「火」と申、火は激しく、申は伸と同じ、去るや猿にも通じる。

「激動の時代が去って新しい時代が始まる年」と読替えることが出来ます。前々回の1896年はオリンピックが始まった時であり、前回の1956年は神武景気の渦中、政府が経済白書の中で「もはや戦後ではない」と述べた年です。

戦後第 1 回の経済白書で都留重人が書いた「国も企業も、家計もみな赤字」という困難な時代から 10 年、
朝鮮戦争を経て日本経済が急速に復興した年、
3 種の神器、テレビに洗濯機と冷蔵庫が庶民の憧れの的となり、
戦前を越え国民経済が勢いを増し、2 桁の高度成長が始まる時期です。
新しい日本が始まることを予感した白書執筆者、後藤誉之助の有名な言葉。

それでは今回の丙申、2016 年の今年はどんな年に成るのでしょうか。
国内外、IT 業界、当社内も含め、良くも悪くも新しい時代の始まりです。
世界的には、原油と中東を軸に従来秩序の崩壊と再生が進み、
政治的には、多極分散化が進む年になりそうです。
国内では、少子高齢化が本格的に始まる年、
課題先進国日本が課題解決先進国に愈々スタートを切る年に成るでしょう。

☆ **IT サービス産業は、変革期を超え新たな成長期を迎える。**

我々の IT サービス業界でも、新たな芽が大きな流れに育ち始めています。
IoT もビッグデータ、AI やロボットも変化の兆し程度の存在だったものが、
今や身近なものとなり、開発事例としても我々の眼前にも現れ始めている。
IoT は画像センサーの様な専用機能を持つ送受信機器だけではありません。
携帯を持つ人も、車も、飛行機もマクロに見れば動く情報発信端末であり、
車の流れから渋滞の解消や天気予報の精度向上にも役立つ。
組み立てラインに部品や材料を届ける牽引車も位置情報付の IoT 端末、
当社の位置検知ソフト iVPS を搭載、自動走行のソフトを作っている。
目的は、車両の無人走行より工場の物流に関わる改善改良です。
当社担当のもう一つの仕事、車両カルテもビッグデータに繋がる仕事です。
所有者を超えて車両の生涯に亘るすべての点検、部品交換と故障診断、
修理データを集め、車種・モデル・交換部品、運転状況・地域・修理工場
などの特性から、故障の予見予防や設計保守サービスの在り方を分析する。
GE では、性能試験中のエンジンやタービンの貴重なデータを設計側に戻す
など、先進的な製造業では今、IT+IoT による第 4 次産業革命が進行中です。
論理のプログラミング時代からデータに学ぶデータセントリックの時代へ、
ビッグデータを解析、課題に対して IT が自ら新たな解を提示する時代です。

社会的な要請を背景として、
IT サービスは次代を拓く重要な社会インフラとなりつつあり、
先端技術の実用化と共に、IT サービス産業は、新たな成長期を迎えている。

☆ **基盤整備 3 年計画のスタート年、課題を明確に新たな挑戦が始まる。**

まだ、本年度の第 4 四半期が残っていますが、上期が良かったので 12 月末現在の付加価値生産額は 27 億 1 千万、1-3 月で 9 億は届くので 36 億 1 千万、気を引締めて頑張れば、目標の 2 期連続二桁増収増益、売上超 36 億円、利益 6 千万は達成可能です。

IT サービス企業としての当社の本当の成長はこれからです。

まず、稼働率を超えて生産性向上に踏込むには、若年層の技術力底上げとプロジェクト管理人材の強化育成が必要です。更に、生産性向上を超え、専門性で高付加価値のサービス生産を狙うには、構想力と企画力・提案力に優れた上級人材の存在と世間並の水準を超えた IT の専門技術者集団が、組織として存在し、現実に機能する必要があります。

上級人材や研究開発者を抱えて持続的成長を目指すには、収益基盤が必要、具体的には、5 つ以上の複数の分野を自立的に担う事業部門が必要であり、それを引っ張る人材、事業指導者、業務寄りの管理者や上級アーキテクト、そして、実際に価値を生産する元気で優秀な IT 技術者、SEPG が必要となる。事業部的な縦型組織と同時にそれを発展的に支える横軸組織も必要である。事業に関わる先端技術を主体的に追及する技術開発部と現場の立場で事業を拓くべく技術の実用化、部品化、指導をする生産技術部、この 2 機能を纏めた応用技術本部という事業横断組織が成長には不可欠だ。

現在の当社には、SE、プログラマーと受託作業の旗振り役はいても、未来への構想力を持ち、リスクを取って事業を創る指導者は皆無に近い。当社の成長発展に必要な組織と人材、企画や専門技術集団はこれから創る。幸いなことに、素材と研究開発の芽、そして若く元気な SE、PG は沢山いる。IT サービスのトップを目指す成長基盤をこれから基盤整備 3 年計画で創る。本年度の準備年を終え、4 月からスタートをきる新年度がその 1 年目となる。

☆ **平均年齢 33 歳の青年期の当社、成長への目標を明確に地道に努力。**

基盤整備 3 カ年計画の初年度、成長条件を整理するのが今年目標となる。4 月に新卒 45 名が入れば、社員 440 名、平均年齢 33 歳、3 期連続二桁成長、T 社/N 社/F 社、大手ベンダー、官庁研究機関などの優れた IT サービス対象顧客、応技開に画像処理と AI の新芽と実績があり、経営を支える 3BU9SS 部がある。IT サービス企業としては中小だが、その潜在成長力は何処にも負けない。

この潜在成長力を顕在化させることが当面の目標だ。

- ① 1～3年生、中国採用者の若手社員のIT専門家としての**技術底上げ**。
- ② 技術者一人ひとりに目標を持たせる仕事の場、社員の**高稼働率維持**。
- ③ **自立未然技術集団**、応用技術開発、KSS部、IVIS上海の**戦略的立直し**。
- ④ 生産性向上へ踏出す為の条件、**一括業務受注拡大**、**営業+PMPL育成**。
- ⑤ **BU制再立上げの基礎条件**、上級管理、営業技術の強化育成と人事異動。

平均年齢33歳の青年期の当社、目先の成果よりも成長条件を重視、整える。

☆ ITサービス業界は今、変革期の渦中、当社はこれをチャンスに成長を目指す。中国の景気急減速、原油価格の超低迷が日本企業に不況の影を落とす中で、少子高齢化と経済グローバル化が進む日本、企業競争は激しさを増している。ITサービス投資は好況時に先行で動き、不況の足音が近づくと先送りとなる。今は微妙な時期だが、現実には予算はあっても先送り傾向が強まっている。更に、昨今の技術高度化と進歩の激しさも、業界の景況に影響を与えている。技術変革期は需要の盛衰が激しく、大手は新成長分野で益々人手不足だが、IT技術力の乏しいユーザー直系子会社や中堅中小は存続すら厳しい状況だ。大半の企業は、新卒採用も充分出来ないまま、技術の陳腐化と高齢化が進み、専門技術や人材が不足し、成長期待の高い先端技術分野への参入も出来ない。

幸いにも、IT分野で進んでいる技術変革は当社にとってマイナスよりプラス、技術変革が進む状況下こそ、技術志向の中堅にとっては絶好の成長チャンス、基盤整備3年計画の初年度、経営改革を進めながら来期も2桁成長を目指す。基盤整備計画の3年間も、計数目標に沿って必要な実績は残して行く。初年度は、10%の要員増と賃上げ2%による経費増を前提として、売上12%増の40億円超、利益は対売上2.5%、1億円とする。現在の成長が外部環境の良さと稼働率によるもので生産性は低水準のまま、これを考慮すれば目標が特別高いものではなく、達成可能であると考え。

ICTの大きな変革期は、業界の下剋上の時代、基盤整備を着実に進めながら、正攻法で規模と業績の拡大が出来れば、相対的に急浮上出来る可能性が高い。今は、資産と実力のある大手が益々大きくなるのが市場の特徴、当社も3年以内に中堅大手に脱皮出来れば、不況リスクへの対策となる。基本は信用と実力、それに必要なのは人材とリーダーの情熱とチームワーク、当社の若い世代が、一流のIT技術者を目指して目標に挑戦、努力すること、中間と旧世代が、リーダーとして自覚と気概を持って活躍の舞台を創ること、これが一体となって動き出せば、3年を待たずに安定成長軌道に乗ると思う。

☆ 激動期を生き抜き、時代を拓いた福沢諭吉の言葉に学ぶ。

今日の朝日新聞に載っていた大学紹介の広告欄にあった慶應義塾大学の清家学長の話を読んでいて感ずる所がありました。

スピーチの終わりに「言葉から学ぶ」と題して

激動期を生き抜き、時代を拓いた福沢諭吉の言葉を皆さんに送らしましょう。

「人に貴賤はないが、勉強したかしないかの差は大きい」

「学問の本質は、学問を自分がどう活用できるかにかかっている。
現実社会に応用できない様な学問は、無学と言われても当然だ。」

「あまり人生を重く見ず、捨て身になって何事も一心になるべし」

「努力は、『天命』さえも変える。」

補足：日本人には常識だが、福沢諭吉は幕末に生まれ慶應義塾を創った人。

「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずと云へり」（学問のススメ）
大阪中津藩の下級武士の家に生まれ、子供の頃に漢籍を納め、黒船来航の時代に緒方洪庵の適塾で蘭学を学んだ後、江戸に出て独学で英語を学び、米国使節団に志願、あの時代に初めて咸臨丸で太平洋を渡った知と勇気の人。その後幕臣として渡欧もしているが、欧米の現地で実際に見て聴いて学び、大量に持ち帰った現地書籍から学んだ知識、それが維新後の新政府への建議や義塾での人材育成、実業支援、書物による民主意識の啓発に活かされる。明治維新で活躍した人は多いが、人々の意識を変え明治維新の大きな流れを創ったのは諭吉を頂点とする文明思想家、今日に繋がる時代を拓いた人達。

大変化の時代に大切なのは広い視野と自ら行動し、自分の頭で考えること、知性と共に時代を拓く志と行動する勇気を持つことが何よりも重要である。

☆ おわりに

少子高齢化、ITの急激な進歩発展、温暖化による地球環境の悪化、激動する世界情勢、歴史的に見ても日本は今、変革が求められている時代、我々もITサービスの変革期の渦中であって新たな未来を拓く責任がある。一人ひとりの力は限られているが、IVISの仲間が集まれば大きな力になる。知性と共に、時代を拓く志と行動する勇気をもって一緒に頑張ろう。（了）